

図16 PI染色による海馬の神経細胞構築の比較。(A)対照例、(B)曝露例。CA1 CA1野、CA3 CA3野、DG 歯状回、o 上昇層、p 錐体細胞層、r 放線層、lm 網状層、m 分子層、g 顆粒細胞層、h 門。

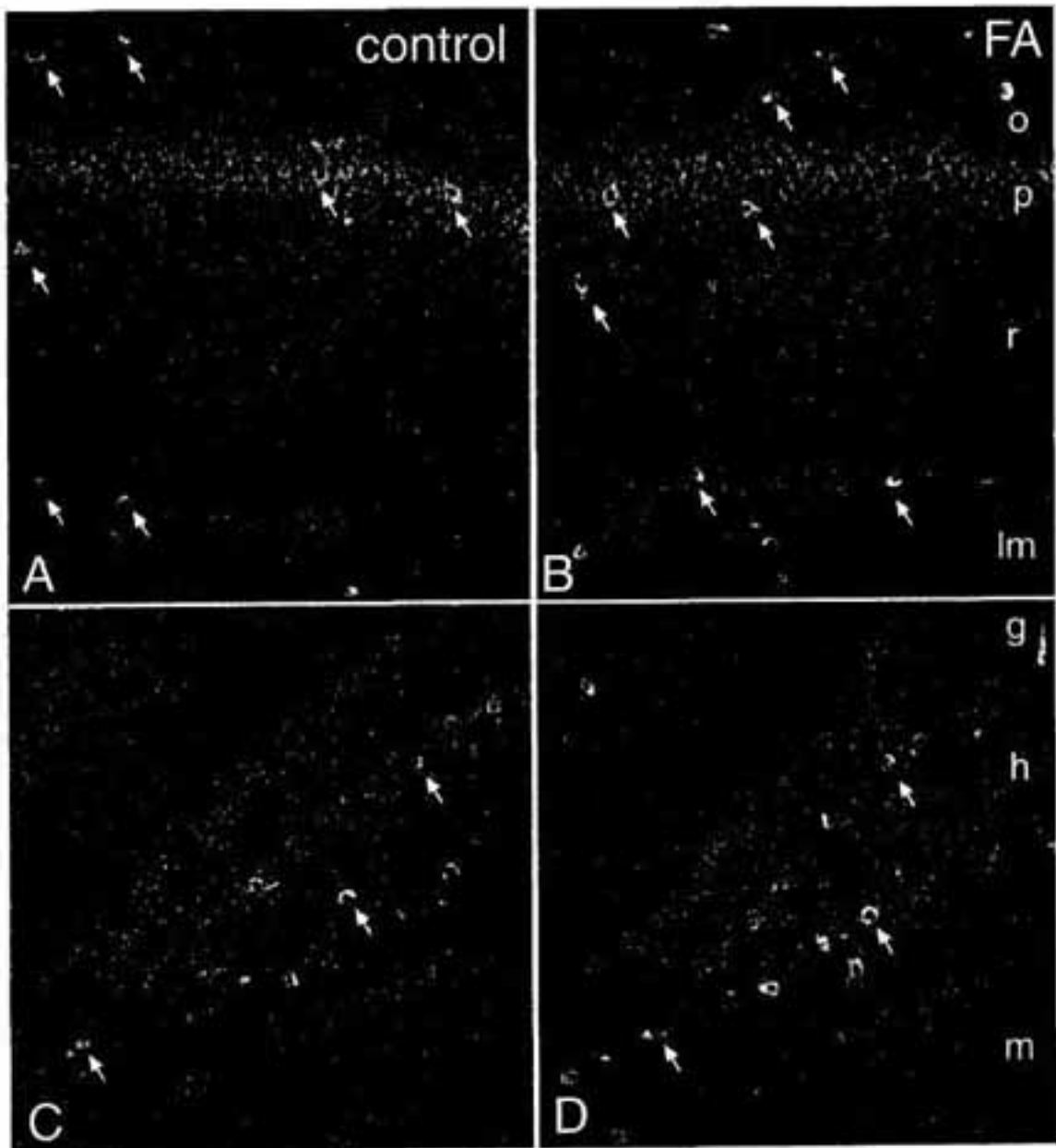


図17 GADに対する抗体を用いた免疫組織化学染色による、GABA作働性神経細胞（矢印）の分布の比較。（A、C）対照例、（B、D）曝露例、（A、B）CA1野、（C、D）歯状回。散在する多数の点状構造物はGABA作働性神経細胞由来の軸索終末。

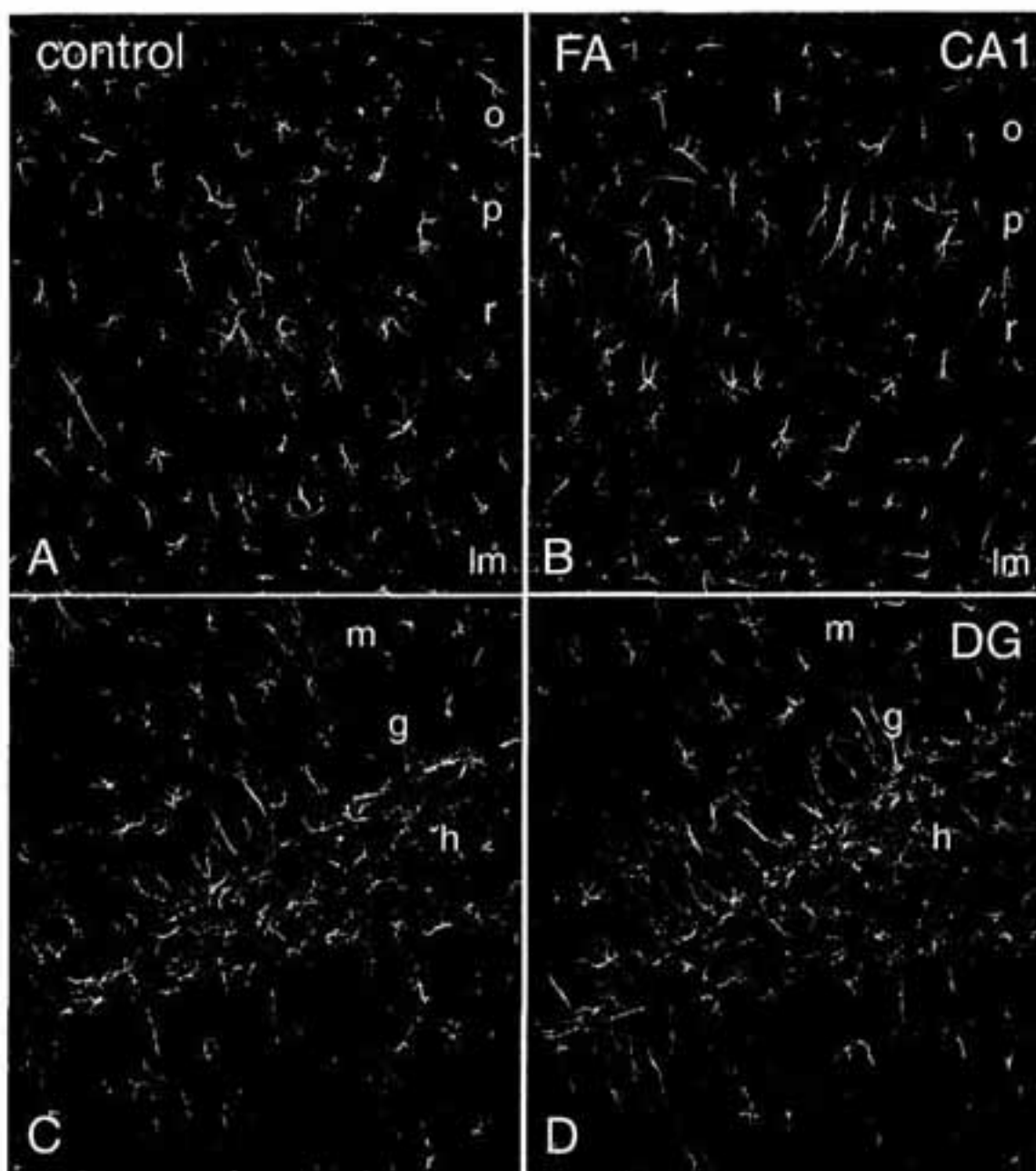


図 18 GFAP に対する抗体を用いた免疫組織化学染色による、星状膠細胞の分布の比較。(A, C) 対照例、(B, D) 曝露例、(A, B) CA1 野、(C, D) 歯状回。

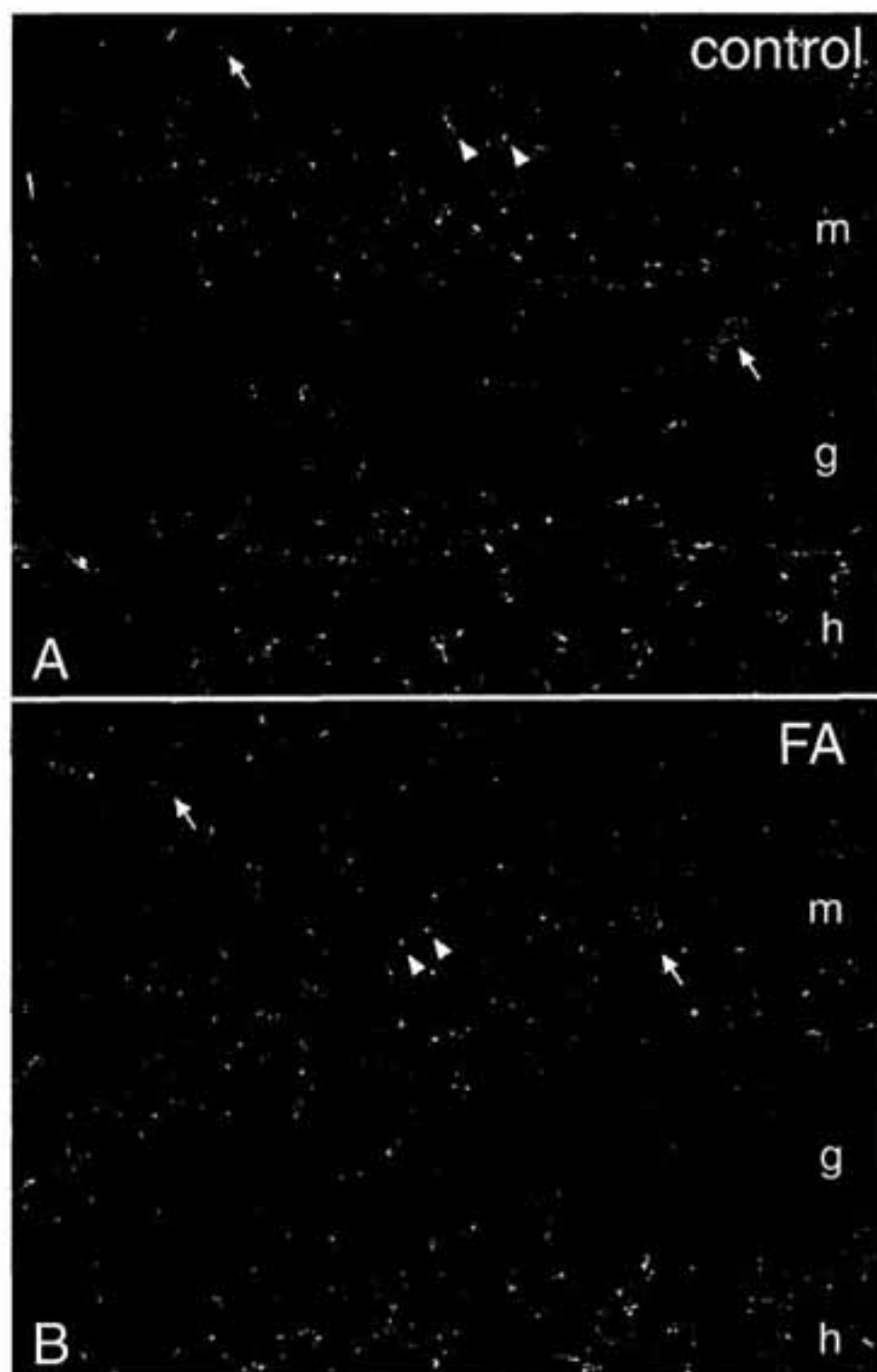


図 19 F4/80 抗体を用いた免疫組織化学染色による、歯状回におけるミクログリア分布の比較。(A) 対照例、(B) 曝露例。矢印はミクログリアの細胞体を示す。組織内に散在する断片状の構造物(矢頭)は、細胞体から伸びる突起が組織内に深く入り込んだものの一部が見えていると考えられる。

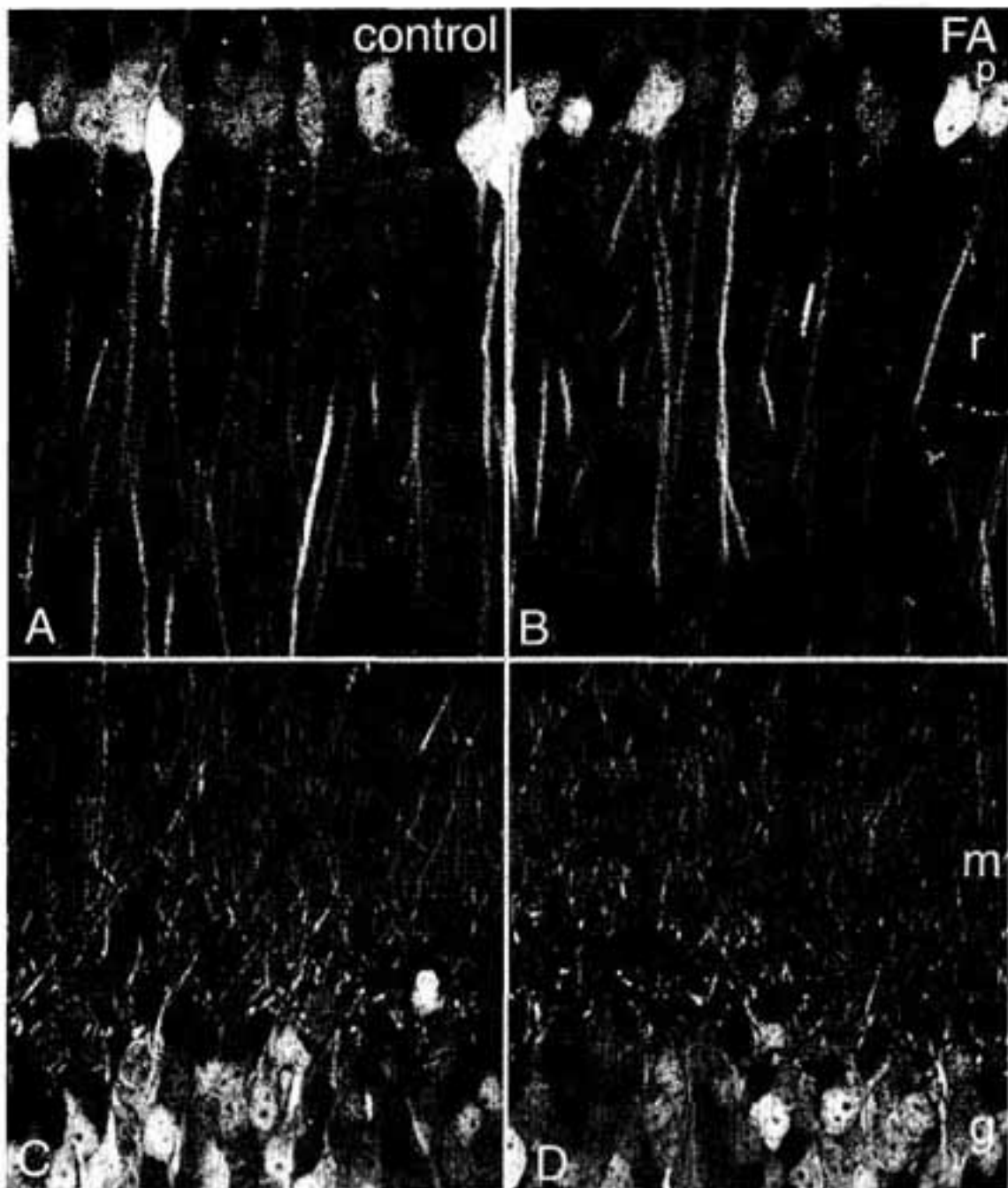


図 20 calbindin に対する抗体を用いた免疫組織化学染色による、CA1 野の錐体細胞 (A, B) および歯状回顆粒細胞 (C, D) の形態の比較。(A, C) 対照例、(B, D) 曝露例。細胞体とそこから伸びる樹状突起が観察される。

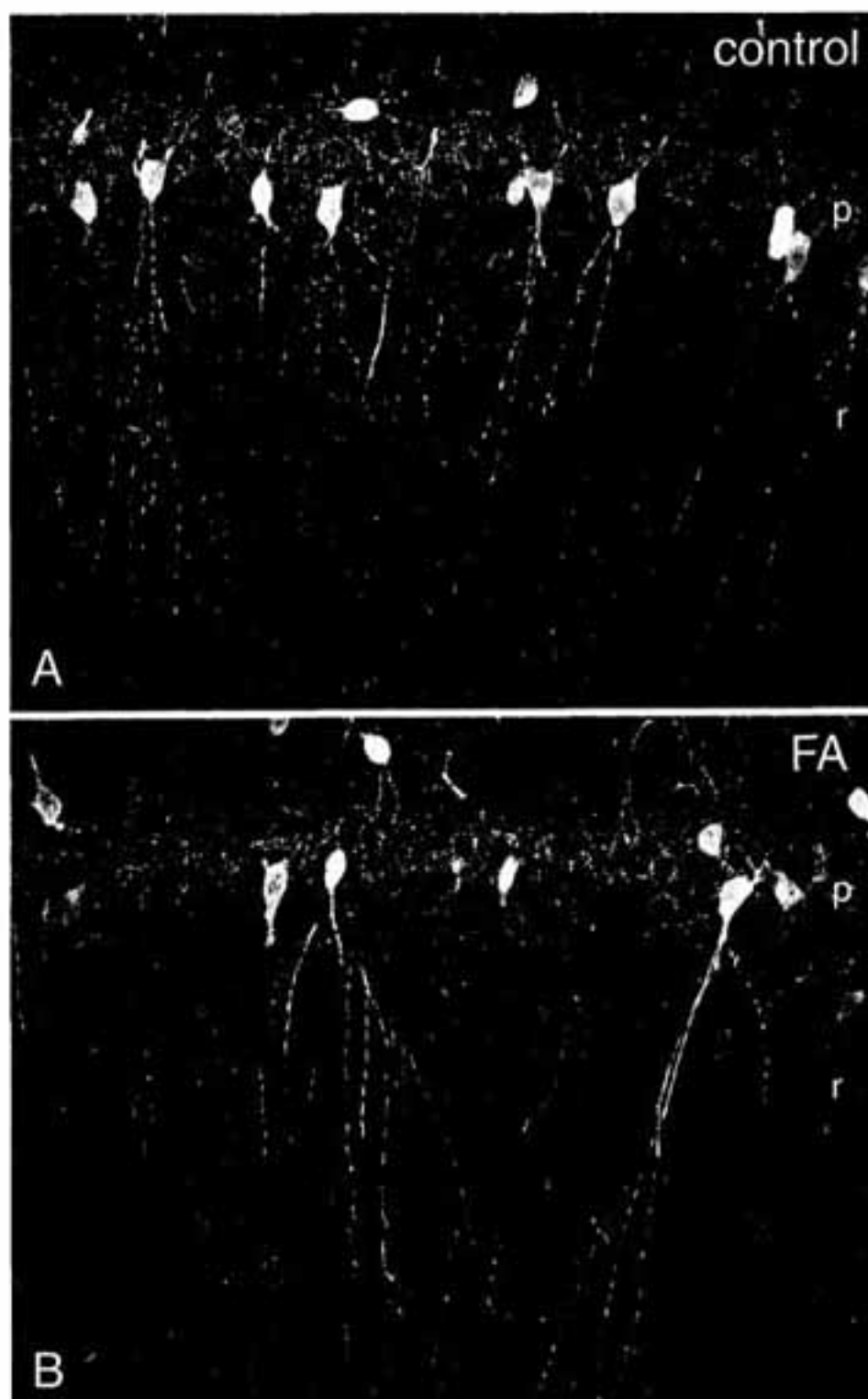


図 21 PV に対する抗体を用いた免疫組織化学染色による、CA1 野の PV 含有 GABA ニューロンの分布と形態の比較。(A) 対照例、(B) 曝露例。細胞体とそこから伸びる樹状突起、および錐体細胞層 (p) 内に分布する軸索終末が観察される。